



絵本革命（後編）



みなさんご存知の通り、インターネット・スマホ・タブレットの普及により、年々書店で本を買って読む人が減っているそうです。そんな不況にあえぐ出版業界で、爆発的なヒット作品が立て続けにうまれている分野があります。それが、なんと「絵本」だそうです。ただ、最近の「絵本」は昔の作品とはちょっと違った雰囲気をもつようです。そこで今回は、そんな「絵本」を新旧併せて紹介していきたいと思います。

(※表紙をクリックするとAmazon商品ページへジャンプします。よろしければ、クリックしてお進みください。)

このあとどうしちゃう (著: ヨシタケシンスケ、出版: ブロンズ新社)

「このあと (死んだあと)」について、おもしろおかしく描かれている絵本。主人公の「ぼく」が、死んだおじいちゃんの部屋から1冊のノートを見つるところから物語が始まります。大人が読んでもクスクスと笑えますが、最後は「大切な人」について考えさせられる不思議な作品です。



おじいちゃんはどう思っていたんだろう・・・

ノラネコぐんだん シリーズ (著: 工藤ノリコ、出版: 白泉社)

ノラネコたちが繰り広げる大騒動で、親子一緒に笑える絵本。既に4作品が出版されています。8匹のノラネコたちがワンワンちゃんの職場を外からジーッと覗いているところから物語が始まります。出てくるかわいいキャラクターたちとノラネコたちの悪だくみに注目です。



誰もが目にしたことのある名作

はらぺこあおむし (著: エリック・カール、出版: 偕成社)

アメリカで1969年に、日本では1976年に発売された、世界中で読まれている絵本。はらぺこなあおむしがりんごや梨などを次々と食べていく物語。あおむしが食べた部分に本当に穴が空いている仕掛けが特徴的です。作者のエリック・カールさんは「色の魔術師」と呼ばれるほど、色彩豊かな絵を描く



ため、世界中に多くのファンがいます。そんなエリック・カールさんの絵画展が4月から開催されます。絵本を読んで興味が湧いた方はぜひ行ってみたいはいかがでしょうか。[エリック・カール展 \(2017.4.22~7.2\)](#)

ニヤー、ニヤー、ニヤー

他にも気になる情報がいっぱい! **Dr.関塾 佐須街道校**

(※作成日: 2017年3月18日)